

平成 27 年度

学 校 評 価

< 記入上の留意点 >

評価 は教職員、評価 は校園長、評価 ・評価 は学校関係者評価委員の評価を記入する。

評価 は小数第一位まで記入する。評価 は4段階を基本とするが、0.5刻みまでを許容とする。
評価 はA B C Dで記入する。

学校の実態に応じて評価内容を追加して設定することができる。

評価、評価 の基準

4	十分達成できた
3	達成できた
2	取り組んでいるが、成果は十分でない
1	取組が不十分である

評価 の基準

4	よく取り組んでおり、成果が大きい
3	熱心に取り組んでおり、今後が期待できる
2	取り組んでいるが、成果は十分でない
1	取組が不十分である

評価 の基準

A	優れている
B	適切である
C	おおむね適切である
D	要改善

尼 崎 市 立 小 園 幼 稚 園

[各校の重点取組について]

- ・幼児との信頼関係を基盤とし多様な経験の中で、自分らしさを発揮できる子どもを育てる。
- ・特別な支援を要する幼児も周りの幼児も共に生活する中で、友達の存在を受入れ、互いのよさや違いを認め合い支え合える子どもを育てる。

学校教育に関する重点取組

1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力を身につけさせる		評価 (教職員)	評価 (校園長)
(1) 授業改善の取組を促進するとともに家庭との連携により、学力向上を推進する (2) 特別支援教育充実の取組を促進し、自立や社会参加に向けた主体性を育成する		3.5	3.5
取組とその成果	課題と改善策		
<p>個々の幼児の学びや課題を明確にとらえ、教師間で共通理解しながら、援助、環境の工夫をして努力してきた。</p> <p>特別な支援を要する幼児の現状に応じた個別の指導計画の作成し、自立へとつなげていくことと、周りの子どもと共に集団生活を送る意味を考え、共生に繋がっていくことを意識して保育を進めた。</p> <p>コーディネーターの会議で自分の方法だけでなく、いろいろなやり方での支援をすることができ、自分自身も高められ、幼児の姿も変わってきた。</p> <p>日々の反省を行うことで、次週の案を立てるときに役立てることができた。</p> <p>保護者に日々の様子を伝えることで今の学びを理解してもらえた。</p>	<p>今の学び、クラス全体での育ち、運動面での取り組みなどを保護者に伝える機会を増やすと共に、個々への指導を丁寧に行なうことで幼児自身の姿が変化できることで、理解が深められるようにする。</p> <p>様々な研修に参加することで、自分自身の引き出しを増やせるようにすると共に、個々の幼児の課題を達成できるように、記録を引き続き丁寧に取り、自分自身で再考していく。</p> <p>支援を必要とする幼児に適した関わり方を見極めていくためには、職員間の共通理解だけでなく、保護者との連携を確かなものとし、問題解決を図っていく。そのために保護者との信頼関係をより密なものにし、家庭で協力してもらうことを具体的に伝えていく。</p> <p>小学校との連携、授業参観を通し、教師の言葉の掛け方、指導方法などを見て、自分自身の保育を振り返ったり、幼稚園の生活、指導について理解してもらえらる場としていく。</p> <p>特別支援教育コーディネーターの話し合いの日を年間計画をたてる段階で決めておく。</p>		

2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る		評価 (教職員)	評価 (校園長)
(1) 道徳性育成の取組を促進し、思いやりで満ちた人間関係及び社会とのかかわりづくりに努める (2) 基本的な生活習慣確立の取組を促進し、心身共に健全な育成を図る (3) キャリア教育の取組を促進し、社会的自立に必要な能力を育成する		3.5	3.5
取組とその成果	課題と改善策		
<p>頑張ったとき、よいことをした時に、それを意識できる声掛けしたり、教師が手本となるようにモデリングをしてきたことで、友達の姿を見て、頑張っていることや、友達のよいところを伝える姿、相手のことを思いやる姿が見られるようになった。</p> <p>教師が幼児のありのままを受け入れることを大切に保育を行ってきたことで、個々の幼児が安定して幼稚園に通えた。</p> <p>幼児と保護者が共に取り組めるように日々の声掛け、取り組みを充実させることで、手洗いや身辺整理など、意識して行なえるようになってきている。</p> <p>支援の必要な幼児に個別に対応し、視覚支援を用いた支援を行い、できるようになったことを意識させる声掛けを行うことで、基本的な生活習慣の確立を図ることができた。</p> <p>特設児のかかわり方をモデリングすることで、周りの幼児がかかわり方を学ぶことができるようになってきたことで、思いやりの姿が見られるようになった。</p>	<p>具体的に学べる場面を見逃さないようにする。</p> <p>ローテーションを組み、計画的に保護者と話をする機会を作るなど、保護者と顔なじみになり、話やすい雰囲気作りをする。園庭に残る機会の少ない保護者との連携の図り方を考え、どの保護者からも気軽に相談できる雰囲気作りを行っていききたい。</p> <p>規則正しい生活習慣の確立について、園長・担任・養護教諭の3者でそれぞれの立場から保護者に分かりやすく伝えていく。</p> <p>早寝、早起き、手洗いなど、支援の必要な幼児の保護者と話す機会を作り、保護者と連携して取り組んでいくことができるようにする。</p> <p>特別支援の必要な友達へのかかわり方がわからず、冷たい態度が見られる。特設担任との話し合いが不十分であったので、話し合いを密にして、幼児自身が友達へのかかわり方を考えられるようにしていきたい。</p>		

3 食育や体育を充実させ、健康な体づくりに取り組む (1) 食育を通して生活改善の取組を促進し、望ましい生活習慣を育成する (2) 体育・スポーツ活動の取組を促進し、体力・運動能力の向上を図る	評価 (教職員)	評価 (校園長)
	3.5	3.5
取組とその成果	課題と改善策	
園庭で野菜作りをしたり、昼食時を利用し、野菜を食べることの大切さを伝えることで、苦手なものを克服する幼児が出てきた。 体を使った遊び、竹馬について刺激を受けたときに環境を準備したことで、意欲的に取り組むことができた。縄跳びや雲梯においても、めあてをもてるようにかかわってきたことで、意欲的に行っている。 家庭と連携を図り、正しい箸の使い方、使えるようになる大切さへの意識が高まるようにしたことで、幼児自身の正しく箸をもとうという意欲につながった。	養護教諭を通して、食育指導をしたり、講師を招き、食育レッスンを行ったりして、個々または全体を通して啓発活動を引き続き行っていきたい。 体を使った遊びが家庭では機会がもてないことが多いので、幼稚園の遊具を使って計画的に行っていく。 手洗いの仕方をより丁寧に見ることが必要であった。どう健康につながっているのかを意識させる取り組みを行っていきたい。 箸の使い方を引き続き、取り組んでいきたい。 ままごと遊びなど、箸を使った遊びを取り入れるなど、個々に応じた対応を取り、箸になじんでいくことができるようにする。	

4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る (1) 安全教育の取組を促進し、登下校及び構内の安全確保を図る (2) 防災教育充実の取組を促進し、危機管理能力の向上を図る	評価 (教職員)	評価 (校園長)
	3	3
取組とその成果	課題と改善策	
保護者と共に週一回、朝の挨拶運動と安全指導を行い、親子で安全教育の意識を高めてきた。 危機管理マニュアルを作成し、非難訓練や遊具の安全点検を定期的に実施し、安全に保育を行なうことができた。 年間を通して計画的に避難訓練を行ってきた。自分の命を守る大切さ、避難の方法を知るなど、防災意識が高まった。 個々に応じて対応しながら訓練を行ってきたことで、必要以上に困ることなく、防災意識を高めることができた。 保護者も引き取り訓練、消火訓練等に参加する機会を作っていることで、防災意識を高めることができた。	登園時、降園時の歩き方などを伝えてきた。今後より安全意識を高められるように、その都度話をしたり、絵本や絵を通して意識化していきたい。保護者へも機会をとらえ、話をしていく。 テラスや廊下を走るなどの危険な行動に対し、歩くことのよさを繰り返し、伝え、歩く意識化を行い、安全に過ごすための方法を考えられるようにする 不測の事態に対応できるように、様々な状況下での避難訓練を行う。 特設担任として担任する幼児の身の安全を確保、確認する共に、親担任も特設児への対応を計画し、意識して避難訓練を行っていく。 特設児の園外保育の参加においては個々に応じて、保護者に参加してもらったり、場所を考慮したりするなど対応をしていく。	

5 家庭・地域・学校の連携を深め、信頼され、活力に満ちた学校園づくりに取り組む (1) 教職員の資質向上の取組を促進し、学校の組織力及び教育水準の向上を図る (2) 地域資源活用の取組を促進し、開かれた学校園づくりを図る	評価 (教職員)	評価 (校園長)
	3.5	3
取組とその成果	課題と改善策	
研修に出ることで知識を多く得ることができ、他の教師に相談したり、話し合いの場を作ることで、幼児によりよい援助を行うことができた。 音楽指導を含め、外部講師を積極的に要請し学べる機会を多くもち、楽しんで保育をすることや、自分のもっていないことへの指導を受けたり、案を作成することで多くを学びがあり資質向上につながった。 ホームページを作成、更新していくことで、地域へのアピールができた。 あいあいランド、ふれあいランドなどを通して幼稚園の行っていることを理解してもらえた。	小学校の授業を参観し、授業内容、指導方法を知り、連携を図っていく。 保護者や地域とのコミュニケーションを図り、園への要望などを知り、教育内容の充実や工夫に生かしていくと共に、それを地域に発信し、公立幼稚園のよさを理解してもらおう。同時に教師一人一人が公立幼稚園のもつ役割を意識し、常にステップアップを心がけ、地域での教育を担っていくことができるようにする。 ホームページの更新を園全体のことやクラスの今の学びや取り組みを内外へ発信し理解を得ることで、幼稚園をアピールしていく。 地域活動に積極的に参加し地域とのつながりを密にし、信頼される幼稚園づくりをする。	

教育目標		評価 (教職員)	評価 (校園長)
		3	3.5
(1) 教育目標の達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 教育目標の具現化と指導の充実			
取組とその成果		課題と改善策	
教育目標を意識し、達成につながるように、個々の自己表出を十分にできるようにかかわってきたことで、思いを伝えよう、考えようという幼児の姿につながった。 幼児が興味をもっていることを読み取りながら環境を準備したり、時間を確保したりすることで、自己発揮できる場を作ってきた。 支援を必要とする幼児を含め、個々の幼児に対して幼児の課題や支援方法を園内で共通理解してかかわっていくことで、したい遊びを見つけられたり、十分に遊んだりできるようになると共に、幼児同士が互いを受け入れて生活できるようになっている。		子どもの発達状況、課題の見取りを明確にしていく。記録を取って話し合うことで教員が身に付け、クラスの幼児全員が個々の力を発揮することを旨とし、教育目標の達成につなげていく。 絶えず教育目標を意識し、「自分を出す」「考える」「試す」「力を合わせる」子どもを目指して保育計画を立てていく。 支援が必要な幼児については、指導方法を園内の教職員全体で再考し、行っていく。	

研究テーマ		評価 (教職員)	評価 (校園長)
		3.5	3.5
(1) 研究テーマの達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 研究テーマの具現化と指導の充実			
取組とその成果		課題と改善策	
自分の思いを出せるようにかかわったり、個々の違いを意識できるようにかかわってきたことで、友達の思いを聞いたり、相手の思いを考えたりして遊ぶ姿につながった。 行動、態度でも自己を表出していることを教師が受けとめ、かかわることで、自分の思いを言葉にして伝えることができるようになった。 あるがままの幼児を受け入れることで、信頼関係を築くことができた。		研究テーマに基づく個々の幼児への指導について、不十分であった点があったので、文献を参考にしたり、研修に参加したり、園内で話し合いをもったりすることで、考えていきたい。 個別に支援が必要な幼児の課題が達成できていないことがあるので、興味をもっているところから遊びの中で課題を達成できるように、個別の指導をしていく時間を確保していきたい。 支援の方法を特別支援教育の担任と各担任とで共通理解できていなかったため、細部にわたる連携を図り、より充実した教育内容を行えるようにしていく。	

		評価 (教職員)	評価 (校園長)
取組とその成果		課題と改善策	